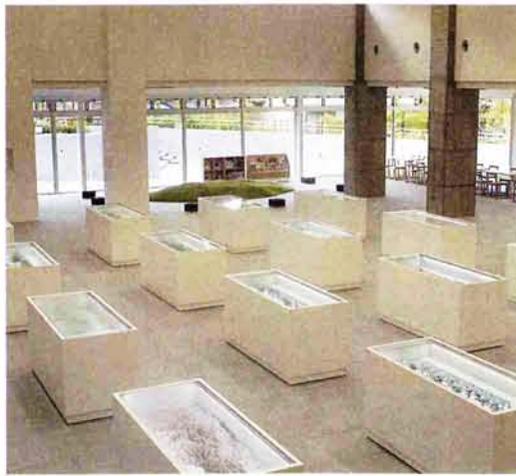




テープカットに参加される大山御貫首



壁面に映し出された美しい映像



様々な標本が並べられている

高尾599ミュージアムオープン

八月十一日、来年より「山の日」となるこの日に、都内唯一の自然史博物館である、「高尾599ミュージアム」が開設されました。

前日の十日には、オープニングセレモニーが行われ、大山御貫首も出席され、テープカットに参加されました。館内には、高尾山に生息する昆虫や植物の標本の他に、壁面に動物の剥製を配した「プロジェクトジョンマツピンダ」という、高尾山の四季の様子を映す映像スペースがあります。

高尾山の昆虫

ウバタマムシ



盛夏に光の輪を放ちながら飛翔するタマムシは実に綺麗で、昔から人々に親しまれ、吉丁虫とも呼ばれ、縁起がいい虫として珍重されています。これは大型美麗種で極彩色のヤマトタマムシに向けられた印象であり、それを雄と見なし、雌と思われるのがウバタマムシです。ヤマトタマムシ同様に大型のタマムシですが、暗金銅色で、体全体に幾条かの隆起した縦筋が見られ、上翅に二対の紋を備えます。

雌雄でありながら体色が異なるシオカラトンボ（雌はムギワラトンボ）のような比喻で、ヤマトタマムシの雌と以前は考えられていたようです。その地味な印象から姥（老女）に例えられた和名が付いていますが、よく見ると重厚で工芸品のような渋い味わいがあり、詫び寂びを感じさせる秀逸なタマムシだと思えます。

マツ林でよく見られ、成虫越冬もすることが知られていて、一年を通して出会うことができ、ウバタマコメツキという本種によく似たコメツキがいるのも興味深く感じます。時に花にも集まり、陽光に体を反射させながら飛ぶ様子は、やはりタマムシであると納得する美しさです。

(撮影・文 松島 孝)

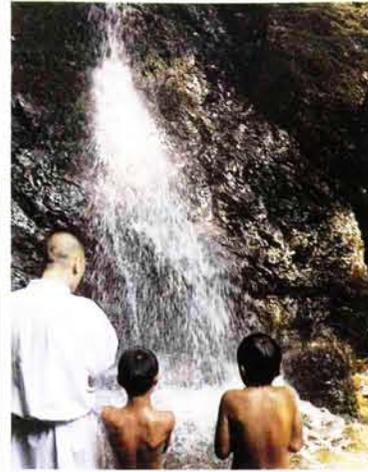
高尾山子供やまぶし修行体験会

八月二日(日)第十二回目の、高尾山子供やまぶし修行体験会が、およそ六十人の子供が参加して行われた。

保護者たちと別れ、山伏と共に琵琶滝を目指して出発。水の勢いに驚くも元気よく滝に打たれ、暑さに負けずに、山を登って昼食のカレーを食べた。

午後には様々な色の玉を使って、自分だけのオリジナル腕輪念珠を作り、有喜苑にて厳修された柴燈大護摩供に参加して、念珠のお加持をした。

その後下山して不動院に戻り、保護者の見守る中、修行を終えた証の「修了証」が授けられ、無事に帰宅の途に就いた。



元気にお滝行



上手に法螺貝鳴らせるかな



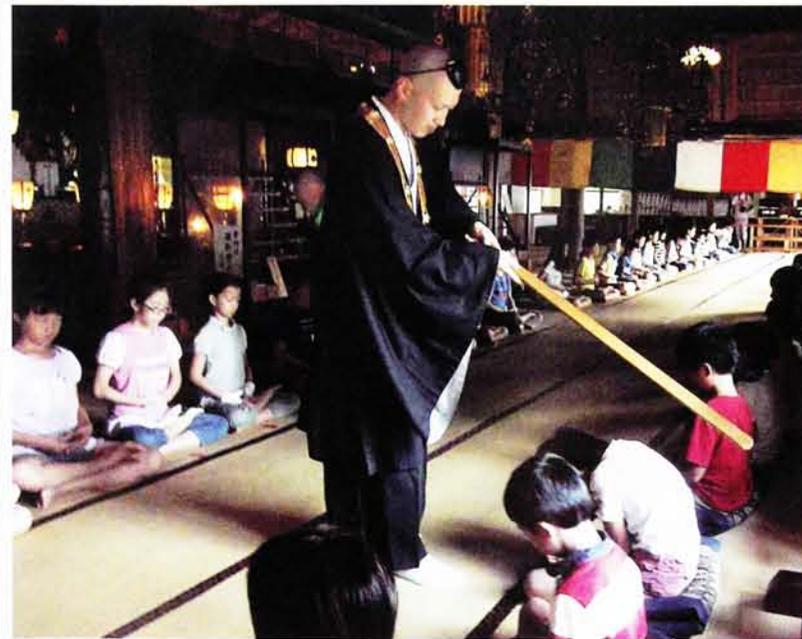
オリジナルの腕輪念珠を作る

京王電鉄(株)主催

高尾山峰中修行体験合宿

去る八月三日(四)日に、第四十三回高尾山峰中修行体験合宿が京王電鉄(株)主催にて行われ、約六十名の子供たちが参加した。

子供たちは高尾山上を歩く自然観察や、室内でのゲーム、早朝には護摩・座禅・法話・写経、最後には琵琶滝にて滝行を行い、各修行を通じて心身共にたくましく鍛えられた。



早朝には大本堂内にて座禅が行われた